

平成27年度
学校評価報告書



黒部市立たかせ小学校

目 次

1	学校の運営方針	P1
2	学校アクションプラン計画 (学校の目標を重点化して学校改善を図るもの)	P2
3	学校アクションプラン結果／成果と今後の取組 (児童の自己評価結果/成果と今後の取組)	P3～5
4	学校評議員会記録（学校関係者評価）	P6～9
5	保護者アンケートのまとめと返信 (学校での学習や生活、学校と家庭の連携他)	P10～14
6	教育活動の振り返り（内部評価）		
	(1) 1学期の反省をふまえた2学期の重点事項 ・教務部会、生徒指導部会、保健部会	P15～17
	(2) 2学期の反省をふまえた3学期の重点事項 ・教務部会、生徒指導部会、保健部会	P18～20
	(3) 今年度の成果と来年度に向けた課題	P21～22

1 学校の運営方針

H27/4/18 (学校だより2号)

学校の教育目標

素直な心とたくましい体で、進んで学ぼうとする子の育成

【心】「きれいな心の子」……………感謝と思いやりの心をもつ子

【知】「大きな夢もつ子」……………目標をもって進んで学ぶ子

【体】「笑顔いっぱいの子」……………元気で強いからだをもつ子

大きな夢もつ子

きれいな心の子

笑顔いっぱいの子

学校で取り組むこと

分かる授業づくり

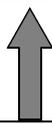
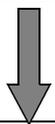
- 授業における基礎的・基本的な学習内容の確実な習得
- 「学習習慣チェックカード」による学校や家庭における学習習慣づくり (アクションプラン)
- 安心して学習に取り組める授業での約束事の成立
～学習規律の確立～

温かい人間関係づくり

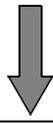
- 授業や学級活動、縦割り班活動を通じた温かい人間関係づくり
- あいさつ運動の推進
「笑顔であいさつ！」
※おはよう、こんにちは さようなら
- 「あったか言葉」の推進
※ありがとう、よかったね いっしょに遊ぼう、他 (アクションプラン)

心身の健康づくり

- 「とやま元気ッズ作戦」による望ましい生活習慣づくり
※早寝・早起き・朝ご飯 (アクションプラン)
- 「からだ元気カード」の活用による体力づくり
※全校リレー、大縄跳び、朝の自主マラソン等
- 「学校からっぽタイム」(晴れた日の大休憩)での外遊びの推進



(連携・協力)



(連携・協力)



家庭で取り組みたいこと

家庭学習の習慣づけ (勉強こつこつ)

- 家庭学習の習慣を身に付けさせましょう。
※「10分×学年」の時間を目標に机に向かえるように支援しましょう。
- 決まった場所で、決まった時間に学習できるように学習環境を整えてあげましょう。
※低学年は自分の部屋に限らず、子どもが安心できる場所でさせてあげましょう。

家族のふれあい (ふれあいたっぷり)

- あいさつの声が響く家庭にしましょう。
※おはよう、ただいま おかえり、おやすみ
- 家族で、お互いの気持ちを伝え合ひましょう。
※ありがとう、ごめんなさい、よかったね
- 家族で決めた手伝いを継続的にさせましょう。
※家族の一員として、共に支え合う喜びをもたせましょう。
- 「よいこと」「悪いこと」の判断を教えましょう。

規則正しい生活リズム (けじめ、しっかり)

- 早寝、早起きができるように支援しましょう。
- バランスのよい3度の食事をしっかり食べさせましょう。
※特に朝食は、一日の生活の元気のエネルギーになります。また、学習意欲や心身の健康にも影響するといわれています。
- ゲームやテレビの視聴時間は、家族で約束事を決めましょう。
※自分で決めたことを守れる子にさせましょう。

2 学校アクションプラン計画

H27/5/22 (学校だより4号)

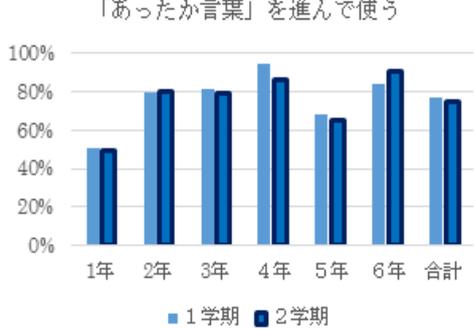
重点項目	【心】「きれいな心の子」……………感謝と思いやりの心をもつ子
重点課題	◆ 好ましい人間関係づくり (「あったか言葉」の推進)
具体目標	・自ら進んで「あったか言葉」を使うことができる児童の達成率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で増やしたい「あったか言葉」を各学級で考え、クラスごとに発表したり、掲示したりする ・友達同士のあいさつや「あったか言葉」を増やせるよう企画委員会が中心になって「あったか言葉」運動を進める。 ・子供たちが「あったか言葉」のよさを意識できるように、教職員からも積極的に「あったか言葉」で声かけをする。

重点項目	【知】「大きな夢もつ子」……………目標をもって進んで学ぶ子
重点課題	◆ 望ましい学習習慣の定着 (家庭学習)
具体目標	・学習習慣チェックカード (自己評価) の児童の達成率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の内容をより具体的にしたり、パワーアップノート (自主学習ノート) を用いたりしながら、学校と家庭が連携し、学習の習慣化を図っていく。 ・「学習習慣チェックカード」を活用し、自分の取組の様子を振り返りながら、学習内容の充実を図っていく。 ・家庭学習の取組について紹介するコーナーを設け、互いの取組のよさを参考にしながら、見通しをもって取り組めるようにしていく。

重点項目	【体】「笑顔いっぱいの子」……………元気でたくましい体をもつ子
重点課題	◆ 望ましい生活習慣の育成
具体目標	・ゲーム使用・テレビ等の視聴時間についての「わが家のルール」を守っていく児童の達成率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでチャレンジ3015」を活用したり、校内放送で呼びかけたりして、毎朝の自主マラソンや晴れた日の外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。 ・毎週月曜日に実施する早寝、健康生活調べやゲーム・テレビの視聴についての「守ろう！わが家のルールウィーク」を実施して、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・「早寝・清潔検査」や「ゲンキッズ作戦」の結果を家庭と共有し連携しながら、健康な生活への意識を高める。

3 学校アクションプラン結果／成果と今後の取組

(児童の自己評価結果／成果と今後の取組)

重点項目	【心】「きれいな心の子」……………感謝と思いやりの心をもつ子																								
重点課題	◆ 好ましい人間関係づくり（「あったか言葉」の推進）																								
具体目標	・自ら進んで「あったか言葉」を使うことができる子どもの達成率80%以上																								
方 策 (取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で増やしたい「あったか言葉」を各学級で考え、クラスごとに発表したり、掲示したりする ・友達同士のあいさつや「あったか言葉」を増やせるよう企画委員会が中心になって「あったか言葉」運動を進める。 ・子どもたちが「あったか言葉」のよさを意識できるように、教職員からも積極的に「あったか言葉」で声かけをする。 																								
 <p>【学校保健委員会「いじめを生 まないたかせ小を目指そう」】</p>	 <p>【人権集会 「あったかすごろく」】</p>  <p>【募金活動】</p>																								
結 果	<p>「あったか言葉」を進んで使う</p>  <table border="1"> <caption>「あったか言葉」を進んで使う</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1学期 (%)</th> <th>2学期 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>80</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>80</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>90</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>70</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>85</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> <p>1学期に比べ、やや達成率が下がっている。しかし、日頃の学級の互いを認め合う活動（例：ほめほめタイム）や人権集会、学校保健委員会等を通し、「あったか言葉」に対する子どもたちの意識は、どの学年も高まっている。（そのため、子どもたちの自己評価も厳しくなったものと思われる。）</p>	学年	1学期 (%)	2学期 (%)	1年	50	50	2年	80	80	3年	80	80	4年	90	85	5年	70	65	6年	85	90	合計	75	75
学年	1学期 (%)	2学期 (%)																							
1年	50	50																							
2年	80	80																							
3年	80	80																							
4年	90	85																							
5年	70	65																							
6年	85	90																							
合計	75	75																							
成 果 と 今後の取組	<p>学級における「あったかタイム」等、定期的な活動を重視することで、校内の意識が高まってきている。また、学校保健委員会でいじめを生まないための学校づくりを考えた。また、人権集会で、縦割りグループによる「あったかすごろく」を通し、「あったか言葉」のよさを実感することができた。</p> <p>その他にも、各学級の「あったかエピソード」を放送や掲示物等で伝え合った。今後も、「あったか言葉」を伝え合う活動を工夫していきたい。</p>																								

重点項目	【知】「大きな夢もつ子」……………目標をもって進んで学ぶ子
重点課題	◆ 望ましい学習習慣の定着 (家庭学習)
具体目標	・学習習慣チェックカード(自己評価)の子どもの達成率80%以上
方 策 (取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の内容をより具体的にしたり、パワーアップノート(自主学習ノート)を用いたりしながら、学校と家庭が連携し、学習の習慣化を図っていく。 ・「学習習慣チェックカード」を活用し、自分の取組の様子を振り返りながら、学習内容の充実を図っていく。 ・家庭学習の取組について紹介するコーナーを設け、互いの取組のよさを参考にしながら、見通しをもって取り組めるようにしていく。



【2年 英会話科】



【3年 算数】



【6年 社会科】

結果	<p>学習習慣(家庭学習 めやす時間×学年)</p> <table border="1"> <caption>学習習慣(家庭学習 めやす時間×学年)の達成率</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1学期 (%)</th> <th>2学期 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>100</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>100</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>90</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>90</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>90</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>全校</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table> <p>■1学期 ■2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期とも、すべての学年が目標の80%を達成している。また、学年における達成率の差もあまりなかった。行事が多かったこともあり、2学期は、若干達成率が低くなった。 	学年	1学期 (%)	2学期 (%)	1年	100	85	2年	100	95	3年	90	90	4年	90	100	5年	90	80	6年	90	85	全校	95	85
学年	1学期 (%)	2学期 (%)																							
1年	100	85																							
2年	100	95																							
3年	90	90																							
4年	90	100																							
5年	90	80																							
6年	90	85																							
全校	95	85																							

成 果 と 今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、全学年共通の「パワーアップノート」を使い、家庭での学習習慣の定着を図った。また、手本となる取組は各学級の家庭学習コーナーや学年だよりなどで紹介し、誰もが参考にしながら家庭学習を進めていけるように工夫した。指導の成果もあり、特に1学期は、多くの子どもが家庭学習を計画的に進めることができた。しかし、一方では、家庭学習の定着が難しい子どももあり、2極化が見られる。 ・今後は、授業と家庭学習との関連を図っていききたい。授業の終末に学習の成果を確認できる場を設ける。そこでは、授業での変容や高まりについての振り返りを行う。振り返りの中で興味をもったことやもっと調べたいことなどを家庭学習で取り組めるようにする。授業と家庭学習との関連を図ることで、望ましい学習習慣の定着をねらっていききたい。
-------------------	--

重点項目	【体】「笑顔いっぱいの子」……………元気でたくましい体をもつ子																								
重点課題	◆ 望ましい生活習慣の育成																								
具体目標	・ゲーム使用・テレビ等の視聴時間についての「わが家のルール」を守っていく子どもの達成率80%以上																								
方 策 (取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでチャレンジ3015」を活用したり、校内放送で呼びかけたりして、毎朝の自主マラソンや晴れた日の外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。 ・毎週月曜日に実施する早寝、健康生活調べやゲーム・テレビの視聴についての「守ろう！わが家のルールウィーク」を実施して、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・「早寝・清潔検査」や「ゲンキッズ作戦」の結果を家庭と共有し連携しながら、健康な生活への意識を高める。 																								
結 果	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <table border="1"> <caption>テレビ・ゲームわが家のルールを守る</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1学期 (%)</th> <th>2学期 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>75</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>75</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>80</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>全校</td> <td>83</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="flex: 1;"> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全校リレーや縦割りリクリエーション、全校大縄跳びに取り組むことで、学年を超えて、関わり合いながら運動に楽しく取り組んでいる。朝の自主マラソンや晴れた日の「空っぽタイム」では、自主的に運動する姿が多く見られ、運動の日常化につながっている。 ・テレビの視聴やゲームの使用について学期に1回「守ろう、わが家のルールウィーク」を実施した。保健だよりで啓発したり、学級懇談会で話題にして保護者間でも話し合う機会をもったりした。このような中で、家庭の協力を得ることができ、よい習慣作りとなった。全校の平均は83パーセント（1学期）80パーセント（2学期）と、目標を達成した。 ・毎週月曜日に行っている「早寝・清潔検査」は学級毎の結果を分かりやすく全校に知らせることで、健康な生活習慣を築いていこうとする子どもの意識を高めている。 	学年	1学期 (%)	2学期 (%)	1年	75	70	2年	85	80	3年	75	85	4年	85	80	5年	85	80	6年	80	85	全校	83	80
学年	1学期 (%)	2学期 (%)																							
1年	75	70																							
2年	85	80																							
3年	75	85																							
4年	85	80																							
5年	85	80																							
6年	80	85																							
全校	83	80																							
成 果 と 今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に運動する機会や、全校でいろんな運動に取り組む機会を設けることで、多くの子どもたちは、体を動かすことを楽しんでいる。これらの活動を今後も続けていきたい。 ・生活習慣については、全体的によい傾向にはある反面、一つの習慣（早寝・早起き）が守れず、他のことにも波及して体調を崩しがちになる子どももいる。各家庭の事情を考慮しながら、保護者と連携を深めて、望ましい生活習慣を築く必要がある。 																								

4 学校評議員会記録（学校関係者者評価）

（1）第1回評議員会

平成27年7月2日（木）

・：評議員　○：学校

【学習習慣について】

- ・高学年では、10分間×学年の目当てやパワーアップノートへの取組は、宿題だけでなく興味・関心があることに取り組むことにつながる。

↓

- ・自分で考えて、自分で進めることによって発想力が育つ。また、大人になって考えをしっかりと表現することにつながる。

○課題を見つけ出しそれに取り組むことは、中学・高校へ進学した際に生きてくる。また、低学年では、学校から帰ったら勉強しようとする気持ちを育てることが大切である。

- ・キッズ（学童）では、宿題を中心に取り組むようにしている。また、必ず子供たちの取組を家庭で確認してもらうようにしている。学童をやめても帰宅したら学習することを続けていけるようにしたいと考えている。

○全国学力・学習状況調査の結果では、富山県の子供たちは家庭学習をととても長時間に渡って取り組む子供も少ないが、ほとんどしない子供も少ない。

- ・全国学力・学習状況調査は、結果が数値として出てくるので、学校も大変だと思う。

↓

○数字には一喜一憂したくないと思っている。ただ、学校としては分かる授業を進めることと家庭学習の習慣化に重点を置き取り組んでいる。

- ・たかせ小学校の子供たちは、家庭学習の習慣も身に付けているが、放課後元気に遊ぶ姿もよく見かけている。とてもよいことだと思っている。

↓

- ・東布施地区と田家地区の子供が交流しやすいように、自転車での行き来を認めたいが、交通量が多く危険な場所もあるため難しい。

【あったか言葉の取組について】

○いろいろなあったか言葉があるが、「ありがとう」が子供たちが好きな言葉である。「ありがとう」を使うと、心が安らぐようだ。

- ・家庭でも、あったか言葉はコミュニケーションのもとになっている。また、心に残る言葉だと思う。

- ・あったか言葉は、キッズ（学童）でもよく使っている。子供たちに指導する際

に、「あったか言葉で言えるといいね」「ちくちく言葉は嫌だよね」など話すと子供たちの心に響くようだ。

○田家小時代からあったか言葉に取り組んでいる。その頃からあったか言葉を前面に出し、全校挙げて取り組んでいる。

- ・自分の気持ちをうまく表現できない子供は、友達とトラブルを起こすことが多いようだ。大人も気持ちを言葉に表すことは大切である。
- ・親に心のゆとりがないと子供を受け止めることができない。短い時間5分でも10分でも子供と向き合うことが大切である。親の思いを先に示し、それに従わせようとすることは、慎むべきであろう。

【テレビ視聴・ゲーム使用の取組について】

- ・親と一緒にいない可能性が高いと思われる。言い換えると、子供が自分の部屋の中でテレビ視聴をしたり、ゲームで遊んだりしているのではないか。そうになると、どんどん悪い方向へ向かうおそれがある。
- ・親が長時間ゲームをしていることがある。これでは、子供に指導することができないと思う。

○今年度、テレビ視聴やゲーム使用について各家庭で約束を作り、それを守ることができたかどうかを振り返る。よいと思われるルールを紹介したり、子供たちの取組を知らせてゆく中で、よりよい生活習慣につなげていけるようにしたい。

【携帯電話・スマートフォンについて】

- ・携帯電話やスマートフォンなど情報端末に関しては、安心できる部分が少ないように思われる。

○携帯電話やスマートフォンは、便利である。その反面、危険が潜んでいる。

↓

- ・保護者から指導していく必要がある。

(2) 第2回評議員会

平成28年2月26日(金)

・：評議員　○：学校

【開校2年目を振り返って】

○学校保健委員会では、富山大学の久保田准教授を招き、いじめ防止について学んだ。その際に、久保田先生は、たかせ小学校の話聞く態度が素晴らしいと話しておられた。また、近くの人と話す場面もあったが、話を聞くときは聞き、近くの友達と話すときは話すなど、切り替えができていることに驚いておられ

た。

↓

「聞き合う」ことを大切にしながら授業を行っている。このことが生きた場面だと思う。

- 英会話指導員やALTなど、いろいろな場面で外部講師に来てもらっている。どの方も、本校の子供たちと授業をするのが楽しいと言ってくれている。

↓

開校2年目、子供の育ちが感じられる。

- ・8年間PTA活動を行ってきたが、今年が最後となる。一つ一つの行事が最後だという思いがあり、なるべく出席するよう心がけた。普段、学校での様子を見る機会がないので、とてもよい機会であった。
- ・今日の卒業を祝う会では、各学年素直にがんばっていた。学年により趣向を凝らしていた。
- ・心にジーンと響くものがあった。見ている人に伝わるものがあった。
- ・子育てを振り返ると、今しか携われないことがある。その時に、目一杯携わることが大切である。

- 教師は、多忙化の中で大変な思いをしている。ただ、子供の一生懸命さを見ることができるので、がんばれる面がある。統合後、子供たちの関わりを見てみると、運動会あたりでもう大丈夫だと思った。統合2年目になり、両地区の保護者の関わり方もよくなってきている。

- ・PTA会長として、子供と保護者が分かるようになってきた。両地区の交流ができるようになった。
- ・食改では、料理教室を行っている。田家地区は両地区に募集をかけているが、東布施では東布施地区だけに募集をかけている。悩んでいる面がある。
- ・統合前の東布施小学校は人数が少なかった。統合後人数が増えた。2クラスになると人数的に無理があるように思われる。
- ・地区によって、行事等のやりがちがっている。

- 夏に公民館が中心となって開いていただいている活動（陶芸教室やそば打ち体験など）は、学校としてとてもありがたく思っている。運動会で新布施谷節を入れることができた。

- ・学童では、子供たちに戸惑いはあったが打ち解けていった。大人ももっと話をする事や関わり合うことが必要だと思われる。

【食育について】

- ・食事は大切なものである。どうして大切なのか保護者も理解を深めていく必要がある。

- ・基本的には、家にある食材の中で体によいものを摂ることが基本になる。
- ・食は大切だと思う。

○学校では、毎週金曜日に栄養教諭が来て食に関する話をしている。学校給食では、子供たちは苦手なものもがんばって食べる雰囲気ができている。

【通学道路推進会議について】

○年度内に通学道路推進会議が開かれる。そこでは、各校安全マップを作成しているが、その中で、改善してほしいところをリストアップする。そこで、地区の要望とのすり合わせが必要だと思われる。

- ・現地の見方と役場の見方が違う場合がある。
- ・道路の拡幅などでは、あらかじめ地権者の了解をとっておく必要がある。

○学校としては、荒町の交差点付近を心配している。しかし、どうにもならない面がある。このようなことも含めて、地区とのすり合わせをお願いしたい。

【情報共有・安全管理について】

- ・インフルエンザやノロが流行した際に、学校と学童との連絡を強化していくことを進めていきたい。また、非常時の避難場所や非常食など学校との情報を共有することが必要だと思っている。

○情報共有のために、安全メールを学童にも届くようにしているが、それを指導員の方にも広げる方法が考えられる。学校では、安全メールの加入率が90%を超えている。保護者には、紙媒体とメールで情報を伝えている。

- ・学童でも、メールを含めて連絡網をしっかりとるように努めている。

【ゲームについて】

- ・小学校では、双方向型のゲームの様子はどうか。

○ゲームの所有率は高く、多くの子供が通信型のゲームをしているようだ。学級懇談会で、子供たちが何時にバーチャル空間に集まろうと話をしていて、時間をとても気にしたり、ゲームをやめられなくなったりしているという話が出ていたようである。

- ・ちょっと前の高校生の様子が小学校に下りてきている感じがする。

○学校では、ゲームカセットやカードなど自分のものは自分で管理するように指導している。また、iTunes カードの危険性を知らせたり、ゲームに必ずしも関わることはないが、お金の貸し借りをしないことを指導したりしている。

- ・子供だけでなく、保護者にもゲームに関する啓蒙が必要だと思われる。
- ・メール等は便利ではあるが、誤解を招くことがある。危険性もあると思っている。

- ・子どもが学校でケガをしたとき、どのようにケガをしたのか細かく状況を教えてもらいました。ささいなことでも親身になって相談にのってくださるので嬉しく思います。(低)
- ・学校との連絡がしやすく助かっています。連絡帳に書くと必ず返事が返ってくるので安心です。
- ・ささいな心配事もきちんと対応していただき、とても安心しています。大げさかなと思うことも真剣に聞いてくださりうれしいです。(中・高)
- ・先生から学校であった心配なことを連絡していただきました。普段、私が忙しくて気付いてあげられないことがあるので、連絡を聞いて私からもきちんと話をするのができ、本人にも解決になり、うれしそうに元気になります。(中・高)

※保護者の方の不安の多くは、我が子が学校でどのように過ごしているのか分からないことからくるものが大きいと思っています。そこで大切にしたいのが、お互いの一本の電話、連絡帳の一言などの「ちょっとした連絡・相談」です。ご家庭からも、ささいなことであっても「ちょっとした連絡・相談」をしてください。子どものうれしい成長や心配していることをお互いに伝え合って、子どものことをいっしょに考えたり見守ったりすることが、子どもを支えていく力になると考えています。

＜家庭への情報提供＞

- ・子どもたちの様子が、学校・学年日より、保健日より、そしてホームページなどで詳しく知ることができて楽しみにしています。タイムリーな安全メールの配信も助かっています。(全)
- ・なかなか子どもとゆっくり話す時間がないため、先生からの連絡やお便りを読んで、学校の様子を知ることができて助かっています。私も子どもとの会話を増やすように努力したいと思います。(中)
- ・「たかせの子」は、全学年の子の様子が分かって楽しみにしています。また、校長先生の言葉で自分の子育てを振り返っています。私も子どもと一緒に成長していきたいです。(全)
- ・学年日より、学校日よりなどで子どもが何をしているか様子が分かりやすく載っていて楽しみにしています。それを基に、親子の会話に役立っています。ありがとうございます。(中・高)

※各種おたよりやホームページには、作成している先生の子どもたちへの思いがたくさん詰まっています。お便りに関して、たくさんの応援メッセージをいただきました。ありがとうございました。

＜PTA活動、他＞

- ・今年の親子ふれあい行事は、昨年度までの一日がかりのお楽しみ会を見直した新しい試みでした。各学年ごと交流できて、役員の方の負担も少なくなってよかったと思っています。(全)
- ・PTA活動に、仕事の関係で参加できないことが多く、申し訳ない気持ちです。(低・中)
- ・PTA活動が負担に感じています。本当に必要なものに絞ってもらえると助かります。(高)
- ・授業参観後の懇談会の参加が少なく、出席する人はいつもだいたい決まっているのが残念です。担任の先生の声を直接聞いたり、保護者同士の情報交換の場としたりして大事にしたいです。(全)

※今年度の学年毎の親子ふれあい活動は、昨年度の一日がかりのお楽しみ会は役員に負担が大きく、また一般の保護者の方にあまり参加してもらっていないことから見直したものです。今回のふれあい活動は、参加した保護者の方からもおおむね好評だったことを聞いています。

※保護者の皆さまには、PTA活動に対して「負担が大きい」「協力したい」など温度差があるようです。一つ言えるのは、授業参観やその後の懇談会、夏休み中のPTA資源回収や親子美化活動のように、時間を割いて集まってもらえることが学校の大きな力になっていることをご理解ください。

子どもの家庭生活 (低/低学年、中/中学年、高/高学年)

＜家庭学習の習慣づけ……勉強コツコツ＞

- ・パワーアップノートを少しでも思っているらしく、コツコツと自主的にしています。ノートを見せにきたときは、どんどんほめてがんばっていることを分からせるようにしています。(低)
 - ・今、漢字に興味があるようで、自主学習で「1年生で習う漢字表」を見て練習しています。(低)
 - ・パワーアップノートを進んでやっています。(教科書?)の本の内容を写すなどの内容ですが、できあがったときにうれしそうに見せてくれます。(低)
 - ・宿題をするのが精一杯で毎日パワーアップノートをするのができません。(低)
- ※低学年のうち、パワーアップノートは無理せず、時間に余裕があるときに、楽しんでできるものを一緒に考えてあげてください。宿題を確実にやって、家でも勉強する習慣付けを最優先にしてください。
- ・自主学習で何をやればよいか分からないときは、私も子どもといっしょに考えたり、声をかけたりして学習しています。(低)
 - ・まだ、勉強するという事に慣れてなくて、遊びと勉強の中間に気持ちがあるようです。(低)
- ※低学年は、まだまだ、手助けが必要な時期。わずかな時間でいいから、いっしょにやったり、できないときは後で目を通して声をかけてあげたりしてください。子どもは関わってほしいと願っています。
- ・宿題はいつもリビングで行っています。音読や計算カードなどがあるので今のままでよいと考えています。パワーアップノートは自分のやりたい学習ができるので楽しいようです。(低)
 - ・勉強する習慣がついてきたように思っています。最近リビングに学習机をもってきたので、机上で集中して取り組めるようになりました。(低)
- ※「リビング学習」という言葉があります。子どもによっては、リビングや台所など、家族とコミュニケーションをとれる一緒の空間の方が安心して勉強に集中できます。「リビング学習」をやめる時期は、お子さんの自我が芽生えるころに、自然に離れるのを見守ってあげればよいと思います。
- ・兄を見習って、自分から進んで勉強するようになりました。少しずつ自分で考え、調べ、分かる楽しみをもってくれるようになり成長を感じています。最近、近所の方に囲碁を通して集中して考えることを習っており、今後の成長を楽しみにしています。(低)
 - ・自分の中で目標をもって家庭学習に取り組んでいるように思います。課題をていねいに取り組みたいという気持ちが伺え、成長したなあと思います。(中)
- ※お子さんの成長を感じたときは、親のうれしい気持ちを言葉にして伝え、一緒に喜んであげてください。それが伝われば、もっと前向きに動こうとします。
- ・習い事もあるので、なかなか決まった時間に学習はできていませんが、次の日までは何とかやっています。自分のペースで自分のタイミングでやりたいようで、親が何か言ってもすぐ口答えするので少し困っています。(中)
- ※言うことを聞かないのは自立が始まった証拠です。むやみに干渉しすぎず、子どもの力を信じて温かく見守った方がよいときもあります。しかし、それは腫れ物にさわるような接し方とは違います。冷静に子どもの姿を見つめ、常に会話を積み重ねる努力をしていけたらいいなと思います。
- ・毎日必ずではありませんが、宿題を終えて時間があるときは、自らパワーアップノートで算数の復習などをしていることがあります。習慣になってくれればよいなと思っています。(中)
 - ・家へ帰ったらすぐに宿題をやる習慣はついているのですが、なかなかパワーアップノートをやりたがらないので困っています。ただ、下の子の宿題を見てくれるのでえらいなと思っています。(中)
 - ・自学ノートからパワーアップノートになって、子どもが私の知らないうちにやるようになって、うれしかったです。やる気が続けばいいなと思っています。(中)
 - ・家庭学習に取りかかるのが遅くて、なかなか集中が続かないようで心配です。(中)
 - ・パワーアップノートをがんばろうとしています。時間の使い方をもう少し考えてほしいです。やる気やエンジンがかかるのが早くなるような声かけの例がありましたら参考にしたいと思っています。(中)
- ※家庭学習になかなか取り組めない子には、小さな目標を設定して、できた成功経験を積み上げたり、その努力を認めたりしたいですね。「がんばったね」「ゆっくりでいいよ」「ここは難しいよね」とがんばりやつまずきに共感して、その子に合ったやる気を引き出す言葉を探してください。
- ・自分で考えて自主学習を進めたり、宿題も時間をかけて取り組んでいます。もう習慣になっていて、本人は「苦」と感じていない様子です。分からないときは一緒に取り組むようにしています。(高)



- ・そろばん、手伝い(料理)など、得意なこと、興味のあることはがんばっています。でも、運動などの不得意なことは避けているようです。楽しんで体を動かすことはないかと考えています(高)
- ・何も言わずに宿題をまず行うようになったことをうれしく思っています。分からないことも、ちゃんと聞いてくれるので、親の私たちも刺激になっています。(高)
- ・家庭学習をがんばっています。自分なりのまとめのノートを作り、授業の復習をしている様子です。習慣となるように声かけをしていきたいです。(高)

※温かな声かけや、一緒に考えてあげることが、すべてお子さんの力になっています。



<家族のふれあい……ふれあいたっぶり>

- ・まず自分の身支度をしっかりとできるようにってきているので、そこからお手伝いに、そこから感謝のあいさつにと発展させていきたいです。(低)
 - ・子どもが何を言っているのか分からないことやその気持ちが分からないことがあります。(低)
- ※低学年は、「言葉で言える」への準備期。そんなときは、もどかしくても、親の方から「ああなの？こういうこと？」などと口出しせずにじっくりと待ってあげてください。待つことも愛情です。
- ・子どもの習い事が多いためか、お互いに忙しく、家庭での会話ができなくなっていることを感じています。忙しくても、会話するように心がけたいです。(中)
- ※働きながらの子育ては、子どもと接する時間が少なくなりがちです。でも、ふれあいは時間の問題だけではないと思うのです。子を思い、子を気にかけて、努力している姿はきっと子どもに届きます。
- ・「ああ、つまらないな。やることない。」と、家でゴロゴロしていることが多いのが気になります。(中)
- ※気をつけたいのは、親のペースで「早く」「がんばれ」「ダメ」などをひんばんに使うことです。ゴロゴロしているのは、やる気が起きない気持ちを分かってもらいたい、話し相手になってほしいという気持ちを、こんなふうに表す子もいます。子どもが「今、どんな気持ちなのかな」と探ってください。
- ・子どもが「おはよう」「ありがとう」「ごねんね」などの「あったか言葉」を使っています。親の私が「あったか言葉」を子どもや周りの人に使う大切さを子どもから教えられています。(中)
- ※学校でも取り組んでいる「ありがとう」「ごめんなさい」などの「あったか言葉」を、家庭でも大事にしていることに感謝します。きっと「人の気持ちがわかる子」「思いやりのある子」に育ちます。
- ・学校でも野菜を育てていますが、家でもミニトマトを育てています。水やりや収穫は子どもたちにもお願いしています。兄妹で声をかけ合って忘れないようにしている姿に成長を感じています。(低)
 - ・子どもと一緒に学校での話で盛り上がります。今日一日、楽しく過ごしたんだなあと安心します。自分の思っていることを素直に言える雰囲気大切にしていきたいです。(中)
 - ・家でのお手伝いをがんばってくれています。親の私も、とても助かっていることを伝えるようにしています。自ら進んで色々なことをやってみようという気持ちを大事にしてあげたいです。(高)
- ※お手伝いは、親子がふれあう一番のチャンスです。また、家族が支え合っていることを学んでいきます。子どもをもっと頼りにしてもいいと考えています。低学年のうちは親子でいっしょに、中・高学年は継続した仕事をもたせてもいいですね。そして、心から感謝してあげてください。
- ・子どもを見ていると「よいこと」と「悪いこと」の判断ができていなくて心配しています。(中)
- ※子どもというのは、本来欠点だらけです。いい子になっていこうと悪戦苦闘の真っ最中ととらえてはどうでしょうか。「よいこと」「悪いこと」の判断は、「あなたはどう思うの？」と問いかけ、「私はこう思うよ」と親もいっしょに考えてあげてください。キーワードは、「いっしょに」です。
- ・登校班の班長になり、朝遅れてくる子に注意したり、1年生の様子を気にかけていたりすることを本人から聞いて、自覚が出てきたんだなあ〜と成長を感じ喜んでいきます。(高)
 - ・娘は今でも、学校で楽しかったこと、大変だったこと、先生や友達との会話など、私に話してくれます。私も娘には、自分の子ども頃の話など、事細かに話しています。ずっと続けていきたいです。(高)
 - ・学校での出来事をたくさん話してくれるようになりました。親子が気持ちを伝え合える機会が増えたことをうれしく思っています。(高)
 - ・子どもと会話するときは、心にゆとりをもって笑顔で接するように心がけています。そうすると、親の私自身が、子どもをゆったりと見守ることができるような気がしています。(高)
- ※子どもは、身近にいる大好きな人、たとえば、お母さんの話し方、一挙手一投足を実によく見ているものです。がんばりや成長だけでなく、失敗もつまずきも温かく受け止めてあげてください。
- ・高学年になり、自分の考えをもつようになり、ときどきですが、反抗的な態度をとるようになりました。しかし、家の手伝いを進んでしてくれることもあり、優しい一面も見せてくれます。(高)

・反抗期に入ったためか、「うるさい！」などの乱暴な言葉が増えてきました。でも、積極的に親から話しかけをしています。(高)

※高学年は、自分のことを見つめ直し、周りの大人の生き方に共感や反発を感じ始める時期。大人の権威の押しつけを嫌います。まずは、子どもの言うことに耳を傾けてから、親の気持ちや考えを伝えるのが効果的です。親の「いつも、あなたのことを見ているよ」という思いが伝わればいいですね。

<規則正しい生活リズム……けじめしっかり>

・規則正しい生活リズムで、ゲームは平日にしない約束を本人として、しっかり守っているのががんばっていると思います。しかし、学校のこと(時間割や次の日の準備、宿題やパワーアップノート)は、一つ一つ声がけしている状況です。自分で気付いてしてくれるようになって嬉しいなと思います。(低)



・鉛筆やはしの持ち方が意識したときはできても、使っていると自己流になってしまっています。意識できるように声がけしていこうと思います。(低)

※鉛筆やはしの正しい持ち方については、やはり家庭の力が大きいと思っています。特に低学年は握る力が弱いため、つい楽な持ち方になってしまいます。気が付いたときに声かけをしてください。

・早寝、早起きがしっかりできるようになり、登校班でも大きな声で挨拶できるようになり、成長したなあと感じています。ゲームの時間も一緒に決めて実施しています。(低)

・ゲーム機はまだ持たせていません。友達関係を考えると持たせた方がよいのでしょうか?(低)

※ゲームでつながる友達関係は、ほんの一部であり、またほんの一時期です。また、お子さんがほしいと言っていない限り、親からゲームを買い与えることはしなくていいと思いますが……。

・保育園時は9時就寝が難しかったのですが、家族でがんばり今では9時に布団に入っています。(低)

・早寝・早起きをがんばっています。ただ、宿題が終わったらテレビ、夕食後もテレビ、お風呂からあがってからもテレビ…と、なかなか視聴時間を決めれずにいます。(低)

・ゲームやテレビの視聴時間の約束は必ず守っている。時間は言わないことにしている。自分で時計を見てやめている。当たり前になっていたが、すごいことなんだと思う。(低)

※あいさつ、早寝・早起きや、約束事を守ることなど、当たり前になっていることの中に子どものよさがあります。それは、周りの大人が意識して見つけてほめてあげたいです。「〇年生だからできて当然！」ではなく、「当たり前でできることがすばらしい」と思って接したいですね。

・早起きができず悩んでいます。バランスのよい食事ができているかという点、朝はパンだけ、バナナだけとバランスが悪いので、早起きして色々なものを食べてほしいです。(低)

・学校の給食は苦手な物も頑張って食べるようになりました。残すのが恥ずかしいようです。(中)

・朝、誰よりも早く起きて、静かに自主学習しています。朝の方が集中できて、学校から帰ったら宿題だけやればいから「楽」なのだそうです。我が子ながらえらいなあと思っています。(中)

・「けじめしっかり」がなかなか親子共にできていないと感じています。つい甘やかしてしまうため、テレビ、ゲーム、マンガなど時間を気にせずにし続けるので、時間を決めて守らせたいです。(高)

※テレビやゲーム時間は、親子で話し合っ、最後は子どもに決めさせましょう。決めたことは 家族の約束事として大切にさせたいものです。うまくいかないときは、またいっしょに考えてあげてください。

・宿題で早寝調べがあるときは、早く就寝するのですが、それ以外は部屋でダラダラ過ごして、11時頃に寝ているようです。朝がなかなか起きられず、朝はバタバタしながら学校に行くので、もう少し早起きできるように声かけをしようと思います。(高)

・寝る時間が遅いのが気になっています。スポ少などがあるときは、帰ってきてからの自分の段取りがあるらしく、声をかけているのですが、なかなか一向に変わらないです。(高)

・早寝や早起きが実行できず、朝は食欲がないようで気になっています。(高)

※十分な睡眠と毎日の朝ご飯。簡単なようできてけっこう大変です。朝食をしっかり食べられない子は、たいがい早起きできなくて朝の時間に余裕がない子です。朝、なかなか起きられない子は、たいがい睡眠時間が足りてない子です。早寝・早起き・朝ご飯で、子どもたちに元気な1日をスタートしてほしいです。

※「疲れた」という子どもが増えてきているといえます。今の子どもたちは、小さい頃から時間に追われ、遊ぶ時間も削られています。そんな子の中には、「疲れやすい」「イライラする」といったストレスを訴える子もいます。そんなお子さんには生活に時間とゆとりを与えてあげることも大事だと思っています。

6 教育活動の振り返り（内部評価）

H.27. 8. 27

（1）1学期の反省をふまえた2学期の重点事項

【教務部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりと終わりのあいさつを大事にする。日直や先生と目と心をつないであいさつを行う。礼をし、1, 2, 3と心で数えてから活動に入る。 ・話を聞くときは、相手の方に体と心に向け、できるだけメモをとらずに聞くことに集中する。 ・指名されたら「はいっ」と返事をする。自分の意見が思い浮かばないときは「今考えています」と発言する。 <p>○パワーアップノートは強制的な宿題とはせずに、子供の自主性を育てるノートとする。パワーアップノートは、時と場に応じて学校で進めてもよい。</p>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の徹底。 ・短縮授業は基本行わない。 ・毎月授業時数のチェックを行い、標準時数を下回らないように気を付ける。
学習指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜日の6限の補充の時間は、一斉学習か自主学習（全員自習の中で個別指導）とする。
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」の活用を工夫する。 ・各教科や特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図る。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの充実。（朝「おはよう」、返事「はいっ」、思いやり「ありがとう」、「ごめんなさい」） ・与えられた仕事を正しく行う。（係活動、当番活動、委員会活動等）
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の活用能力を高める。（CD ラジカセ、デジタルカメラ、書画カメラ、パソコン、マイク） ・情報モラルの指導を学級で行う。（パソコン室にまとめたものを掲示）
図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・リクエスト本の借り方、返却の仕方について共通理解を図る。 ・学級文庫の充実。（学年の本については別のラベルを用いて他の本と区別する） ・読書タイムには、吹き出し本ではなく活字本を薦めるようにする。
英会話科 国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> ・PictureCard を授業の中で生かしていく。（高学年） ・金曜日の健康観察は英語で行う。 ・授業の打ち合わせをしっかりと行う。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に1学期の反省と2学期の目当てを記入し、子供たちによりよい支援ができるようにする。
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室の共通掲示物として、黒部市民憲章、たかせ小学校目標、学習習慣チェック項目、家庭学習コーナーを掲示する。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の互見授業を計画的に行う。事後研修では、授業改善の3つの視点に基づいて協議を行う。 ・特に、展開から終末への学習過程や活動の工夫について研修を深めていく。

【生徒指導部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・「あったかエピソード」の発表を行う。(10月頃 1～4年生) ・学級における定期的なあったか言葉の取り組みの継続。 ・人権集会の実施(11月下旬～12月上旬)
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動(あいさつ名人)の具体的な重点ポイントを伝える。(9月上旬) ・あいさつボランティア隊の継続(学級指導に応じ、何曜日にも何人やってもよい。) ・友達同士のあいさつを増やす取り組みの継続(あいさつカードの活用10月頃)
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・報、連、相、確の徹底(学年間→生徒指導主、教頭 小委員会(必要に応じて)) ※保護者からの子供の相談(悩み、心配事) ※保護者へ連絡する必要がある子供のトラブル、けが 等 ・生徒指導の機能を生かした学級運営、授業の研修会の実施(夏休み中) ・いじめゼロにむけた校内研修会の実施(人権集会と関連 11月下旬、12月上旬)
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・たかせ小学校危険マップの作成(生徒指導部が作成) ※校内掲示、指導 ※保護者配布 ・自転車のヘルメットのあごひも指導(留めていない子がいる。) ・街頭指導者による登校指導(ランチルーム) ・スクールバスの定期的な指導(下校時)
児童活動	<ul style="list-style-type: none"> ・フレンドリー集会は、2学期も計画的に実施する。 ・放送指導の徹底(マイクに近づき、大きな声で ゆっくり) ※指導の中心は委員会担当者
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランの内容参照
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい週間(個人面談)の実施(10月) ・学校生活に関する保護者アンケートの実施(11月) ※12月の保護者との個別面談につながるようにする。 ・特別支援コーディネーターや養護教諭、生徒指導部が連携しながら、必要に応じて小委員会、懇談会を実施したり、外部の専門機関と連携したりして教育相談を進める。

【保健部会】

重点課題	2 学期重点的な取り組み
<p>★アクションプラン</p> <p>望ましい生活習慣の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「テレビ・ゲームわが家のルールチェック」は、一週間の取り組みであったが、各家庭で決めたルールを見直したり、意識付けたりするにはよかった。2学期も同様の期間で行う。 ・2学期は寒い時期に向かう。外で遊ぶ機会が減るためゲーム、テレビの使用時間が増えてくる。その時期を見計らって実施する。(11月中) ・子供を変えるためには親への啓発が必要である。保健便りや学年便りなどを活用し、啓発していく。 ・月曜日の健康チェックは位置付いている。結果発表は分かりやすく、タイムリーである。チェック項目の中に定期的にゲーム、テレビの視聴についても入れていく。
<p>体力づくり チャレンジ3015の活用</p> <p>朝のランニングや全校縦割レクリエーション等</p> <p>体育科年間指導計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級で時間を確保して3015を記入している。体育委員が全校児童のものを集めて達成者を紹介する場を設定する。 ・全校縦割りレクリエーションは勝敗が決まるものがよい。体育大会が終わってから綱引き(2回)を実施する。 ・縄跳び集会でいろいろな技を披露することで、技の習得への意欲、練習意欲を高める。 ・特に器械運動のための運動器具を常設し、期間を設けることで、計画された授業時数を確保できるようにする。
<p>給食</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の石橋先生の指導力を給食指導や学級活動、家庭科の学習等に生かしていく。9月には給食集会を実施する。 ・ランチルームに入室してから、盛られた給食の量の加減に時間を要し、着席までに時間がかかる。スムーズにできるように指導する。 ・片付け時には、各グループ2名以上の職員がいるので、食器返却の見届けと、食事テーブルの後始末の見届けに分かれて指導する。
<p>清掃</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・47分までは清掃活動、その後は反省会と後始末は定着してきている。黙働が定着しない。今後も継続指導をしていく。 ・各掃除場所の用具と担当者の人数配分を見直し、場所に合った清掃の仕方を工夫する。9月28日清掃計画会実施。
<p>保健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比較してけがが少なくなった。2学期も安全に留意した生活を送ることができるよう声掛けしていく。 ・運動会練習での暑さ対策が必要(安全帽をかぶる。水分・塩分の補給。タオルの持参) ・インフルエンザで学級閉鎖があった。昨年度のように湿気対策を講じる。

【教務部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と家庭学習をリンクさせる。授業の中で、家庭学習として取り組んでいけばよい内容について声がけしていく。 ○家庭学習の取り組みについて、学校・学年だより等で家庭に呼びかける（<u>学期に1回は、学年だよりにパワーアップノートの手本となる取り組みを載せる。</u>）。
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間は、実施時数から判断し、3学期の計画を立てる。 ○各教科・特別活動においては、実施時数から調整して授業時数を確保するように工夫する。<u>月末に時数集計表を提出する。</u> ○行事の際は、<u>全校掃除を行わず、帰りの会～下校までがスムーズに行えるよう、校時運行にゆとりをもたせる。</u>
学習指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ○金曜日6限の補充の時間は、一斉授業か自習の時間（個別指導を含む）とする。 ○算数の時間は、学習問題についてまとめた後に、活用の時間として適用問題を解く時間を設ける（10分間を目安にする）。
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたしたちの道徳」を計画的に活用する。 ○授業時数の確保に努める。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃のあいさつや係活動など、普段の活動を大切にしていく（教育計画43Pを参照）。
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で書画カメラを効果的に使用できるよう、指導内容を工夫していく。 ○情報モラルについて学級で指導していく。<u>特に、インターネット掲示板やライン等のコミュニティサイトを利用する際のルールや危険性について伝えていく。</u> ○パソコン室でパソコンを使った授業を行う場合は、事前に、操作方法やモラルについて指導を行う。<u>操作方法についての子供用マニュアルを設置する。</u>
図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを1から3年で継続して行う。 ○学級文庫の入れ替えを徹底していく。入れ替えについては、図書委員会だけでなく、<u>学級担任の裁量で行ってもよい。</u>
英会話科 国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> ○P i c t u r e c a r dを効果的に活用していく。 ○今月の歌や朝の校内放送、毎週金曜日の健康観察を英語で行う。 ○英会話授業の打合せをしっかりと行っていく。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画に2学期の反省と3学期のめあてを記入し、子供たちによりよい支援ができるようにする。 ○通常学級でも、<u>特別支援教育の見方や考え方を積極的に取り入れていく。特に、聞くことについての支援の仕方について研修を深める機会をもつ。</u>
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ○学級内はシンプルな掲示に努め、子供たちに学習に集中できる環境を保證していく。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ○研修のまとめの作成に取り組む。部会で読み合い、しっかりと検討する。

【生徒指導部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・「あったかポスト」を設置。メッセージをあったか宅急便としてプロジェクト委員会が相手に届ける。週1回、メッセージをランチルームでも（名前を言わないで）紹介。【2月】 ・学級における「あったか言葉」や「あったかアクション」推進のための活動（あったかタイム、ほめほめタイム等）の継続。【学期】
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士のあいさつを増やす取り組みの継続（あいさつカードの活用）【1月】 ・あいさつボランティア隊の継続【学期】
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・報、連、相、確の徹底（学年間→生指主、教頭、小委員会※必要に応じて）【学期】 ・日頃の雑談や情報交換会で、気付いた子供たちのがんばりやよさを伝え合う。【学期】 →一人一人の自己肯定感を高めることがいじめゼロにつながる。 ・ソーシャルスキル、エンカウンター（仲間作り活動）等の学習を実施する。 (道徳としてカウント)【1、2月】 ・本校の生徒指導面、いじめ防止基本方針の見直し（研修会として）【2月】 ・廊下歩行指導の強化「カメカメ大作戦（プロジェクト委員会）」【1、2月】
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの指導の徹底。5分前乗車。3分前に乗車確認開始。【学期】 ・街頭指導者による登校指導の継続（ランチルーム）【学期】 ・集団登校班の定期的な見守り指導【学期】
児童活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の開始時刻の徹底（3時10分から委員会ができるようにする。）【学期】 ※低学年の担任は下校指導のため、少し遅れると思うが、もう一人の担当者が中心に始める。 ・卒業を祝う会に向けた指導（企画、運営は5年生が中心に行います。）
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランの内容参照
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれ合い週間の実施【2月】 ※一人一人と面談する時間がない場合は、心配なことがあると答えた子や、気になる子と面談する。 ※1日1回は全員と会話することを意識し、一人一人との日々のかかわりを大切に する。 ・特別支援教育面は、長津Tや荻野T、学びの教室の山本Tと情報を交換しながら、 連携して取り組む。【学期】

【保健部会】

重点課題	重点的な取り組み
<p>★アクションプラン</p> <p>望ましい生活習慣の育成</p>	<p>○2学期の「テレビ・ゲームわが家のルールチェック」結果は、7日間で5日以上が守れた児童の割合は80パーセントであった。1学期と比較すると3パーセントダウンしている。3学期はさらに低下することが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月にチェック週間を設ける。1月3月にそれぞれ1回月曜日の健康生活チェック項目に入れる。 ・3学期の始めに、各家庭への啓発を保健だよりを通して行う。また、ルールについての見直しや確認も行うこととする。 <p>○就寝時間が遅い児童が固定化している。本人や家庭への呼びかけが必要である。</p>
<p>体力づくり チャレンジ3015の活用</p> <p>朝のランニングや全校縦割レクリエーション等</p>	<p>○チャレンジ3015の中間報告は各自の振り返りの機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成者への日常の運動を継続するために2枚目を渡すなどの取組をしている学級もある。実態に応じて行っていく。 <p>○3学期の縦割りの短縄跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始前（1月20日）に水曜日と木曜日の学団でどのように行うかを話合う機会をもつ。 ・年度末にリレーと大縄跳びの結果を合わせて優勝チームが決定する。大縄跳びの得点を中間発表し、意欲化を図る。 <p>○全校リレーの集合場所を変えたことでスムーズに実施できた。空っぽタイム、マラソントイムの取り組み現在の方法でよい。</p>
<p>給食</p>	<p>○給食週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズやアンケートで、食やマナーについての理解を深める。 ・給食への感謝の心をもてるように、石橋栄養教諭からセンターの方々の苦心や苦労について話してもらう。 <p>○給食の量の調節</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班リーダーが班内で調節する→グループ担当の職員が隣や近くの班と加減する→食べきれない量であれば4番の食缶に戻す。 ・少食、偏食の児童は、好まない物でも半分は食べるように指導する。また、大食の児童には、健康状態を考えた量を加減する。 <p>○布巾、雑巾干しは給食委員会児童からランチルーム掃除担当者に移行する。掃除のない特別運行の日（小教研等）は、校務助手にお願いする。</p>
<p>清掃</p>	<p>○縦割り清掃でリーダーの位置づけができてきている。他の児童も時間いっぱい掃除をしている。</p> <p>○ワックス塗布のための時間変更が守られない。給食時に食事終了の時刻を伝えておく。</p> <p>○下足箱の長靴の雪水対策の雑巾は、積雪状況をみて開始する。</p>
<p>保健</p>	<p>○インフルエンザ、ノロウィルス対策として清掃時の換気、霧吹きでの加湿を実施する。</p> <p>○学校保健委員会への保護者参加が少ない。学級だよりや学級役員を通しての参加を促す。</p>

	今年度の成果及び課題	○成果 △課題
学校運営	<p>①教職員の協働体制づくり（内に開かれた学校づくり）</p> <p>○日頃から様々な取り組みの成果を認め合ったり、課題を共有して共に取り組んだりするなど、校務の充実を通して協働関係を強めた。</p> <p>○校務や研修のスリム化を図り、会議・行事なども見直し、学校パワーアップを推進した。</p> <p>△学校が組織として動くために、さらに確実な「報告・連絡・相談・確認」を大事にしていく必要がある。また、教職員の学校運営への参画意識を高めることで、活力ある学校づくりにつながるものと思われる。</p> <p>△教育活動の重点化をさらに図り、年間を通したP D C Aの評価活動を工夫する。</p> <p>②家庭・地域との信頼関係づくり（外に開かれた学校づくり）</p> <p>○各種たよりによる積極的な情報発信は、学校への視線を変え、家庭との連携の一助となっている。また、学校だよりの「保護者アンケートのまとめと返信」では、学校と家庭の思いとともに保護者間の子育ての考えのよさや違いを知る機会とした。</p> <p>△今後も、家庭との「ちょっとした連絡・相談」を大事にして信頼関係づくりを進めたい。</p> <p>③教師の資質向上（人づくり）</p> <p>○教師の仕事や授業づくり、子供や保護者との対応などについて、日頃の会話や雑談を大事にして、互いに学び合う職員室となっている。（O J T）</p> <p>○校長の願いや学んできたことなどをできるだけタイムリーに伝えてきた。（職員室通信）</p> <p>④特別支援に関する校内支援体制の整備</p> <p>○正副特支コーディネーターを軸に、支援を要する児童へのサポート体制を強化した。</p> <p>△正副特支コーディネーターが通級担当者やスタディ・メイトとの連絡を十分にとるよう心がけるようにしていきたい。</p>	
学習指導	<p>①分かる・できる授業の取り組み</p> <p>○研修では授業の導入・展開・終末での視点を基に、学団での互見授業や事前・事後研を通して指導の工夫に努めた。また、研修の振り返りとして実践報告会(3月)を行い、それぞれの授業で効果的であった指導の工夫を発表し合って互いに学ぶことができた。</p> <p>②学ぶ意欲の向上と授業規律の確立</p> <p>○「学習習慣チェックカード」の項目を精選して取り組み、成果が見られた。</p> <p>○「聞き合う力を育てる」ための3つの約束事や「話す・聞く・作業する」の区別等を授業の留意点という形で全教員で共通理解し、学習規律の確立に努めることができた。</p> <p>△授業での生徒指導の機能（自己肯定感を高める～「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定の場」など）を生かす研修を、さらに進める必要がある。</p> <p>③家庭学習の習慣化（アクションプラン2）</p> <p>○自主学习ノートをパワーアップノートとし、学習意欲を高めたり学習内容を例示したりする表紙を準備した。また、意欲を高めるためにシールを活用するなどして、自主学习に取り組む子供が増えた。</p> <p>○各学級で家庭学習の方法を具体的に指導したり、自主学习ノートの活用をよさを掲示したりすることで、家庭学習のめやす時間（10分間×学年）を達成した子供が増えた。</p> <p>△今後、家庭学習を充実させていくために、授業の学習内容と家庭学習を効果的につなげたり、家庭学習の取り組みのよさを発信したりして望ましい学習習慣の定着を図りたい。</p>	

	<p style="text-align: center;">今年度の成果及び課題</p> <p style="text-align: right;">○成果 △課題</p>
生徒指導	<p>①積極的な生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の不安や悩みを見逃さない観察と共感的な声かけや相談活動に努めた。 (日頃のふれあい、「ふれあい週間」、「生活アンケート」他) ○生徒指導の力量を高める校内研修会を行い、互いの考えのよさや違いを学んだ。 (学級集団の集団意識を高める研修1回、ネットトラブルに関する研修と振り返り1回) ○ネットに関するアンケートを基に、子供への指導(ネチケット教室・7/15 5.6年生対象)を実施した。 ○「いじめの防止」をテーマに学校保健委員会を開催した。保健委員会の発表を行いながら、講師の話聞いた。保護者へ出席を呼びかけたり、保健だより等を通してその様子を知らせたりしたため、子供・保護者ともいじめ防止への意識を高めることができた。 <p>△生徒指導部が中心となり、子供同士のつながりを強めるソーシャルスキルなどの学級指導を行った。一朝一夕では、望ましい学級づくり・集団づくりにはつながらないので今後も指導を続けていく必要がある。</p> <p>△「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、些細な情報も共有して、問題がおこった場合は組織で対応する支援体制(生徒指導小委員会他)を今後も強化していく。</p> <p>②児童の温かい人間関係づくり(アクションプラン2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、児童会のプロジェクト委員会を中心に進めた「あったか言葉」の広がり で、子供たちの温かい関係づくりに成果が見られた。 (「あったか言葉」の発表・掲示、「あったかエピソード」「あったかアクション」「あったかポスト」他) ○学級においても、「きらきらを見つけて伝えよう」「なかよしメッセージ」など、帰りの会などで互いを認め合う温かい取り組みを進めた。 <p>△あいさつは、総じてできる子供たちである。また、あいさつボランティア等の活動により、あいさつ運動は広がっている。来年度は、さらに「あいさつ運動」が広がるように進めたい。</p>
健康安全	<p>①健康指導(アクションプラン3) ※県学校保健会優秀賞を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「早寝・清潔検査」や「とやまゲンキッズ作戦」の結果を、保健だより(1~28号)などを通して、家庭と共有し連携しながら、健康な生活習慣づくりに成果があった。 ○ゲーム使用等を含めた生活の見直し(学期に1回)は、各学級で指導したり、学級懇談会で話題にしたりして、各家庭で子供の生活リズムやゲームのルールを見直す機会となった。 ○「あなたが大好き」(いのちの授業6年7/3)「薬物乱用防止教室」(5・6年12/16)、などに取り組み、心とからだの健康づくりについて考えることができた。 <p>②体力づくりの日常化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなでチャレンジ3015」等を活用して、始業前の自主マラソン、週一回の全校リレー(冬期は大縄跳び)、大休憩時のマラソン(毎週水曜日)など、子供たちは目当てをもって取り組むことができた。 <p>△体力テストの結果を生かし、各学年や全学年共通の弱い点を共通理解し、日頃の体育の授業等を通じた活動の工夫が必要である。</p> <p>③安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防犯パトロール隊や学童保育指導員(たかせキッズ)など、地域の方との連携を図り、児童の安全確保に努めた。 <p>△事故やケガの未然防止、発生したときの対処など、学校の危機管理体制を整備するとともに、児童及び教職員の危機管理意識を高める必要がある。</p>